

コロナ禍におけるクラス担任による学生支援の実態

杉田郁代

(高知大学 大学教育創造センター)

1. はじめに

2020年の春に、新柄コロナウイルス感染症によって、大学教育は大きく変化した。その発端となったのは、「令和2年度における大学等の授業開始等について」の通知¹⁾である。その通知の中では、遠隔授業の活用が提案され、「テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業」¹⁾が示された、これによって、多くの大学では、同時双方向型とオンデマンド型の遠隔授業が導入された。しかし、学生の学びを支える取組も行われている。本発表では、コロナ禍における学生支援の事例として、コロナ禍におけるクラス担任の行う支援について明らかにすることを目的とする。その結果から、今後のオンラインを用いたクラス担任による学生支援と学生相談の可能性について議論を行い、新たな学生支援と学生相談の可能性を探るための知見につなげる。

2. クラス担任制の担う役割

クラス担任制は、2005年時点では、大学全体では91.5% (回答数1065校) であった²⁾で実施されている。また、新入生に対しては、79.3%³⁾の実施率であった。クラス担任は、大学教育の一環として学生支援3層モデルの第2層「制度化された学生支援」に位置づけられ、役割・機能を担った教職員の活動⁴⁾とされている。クラス担任の定義は「教員が一定数の学生を受け持ち、学生は自分を受け持つ教員に授業や学習の過程、勉学の仕方や方向、進路などについて相談できるもの⁵⁾」とされ、クラス担任は、学生相談と学生支援を担っていることが明らかである。

3. コロナ禍の学生支援

コロナ禍において、文部科学省より、学生のメンタルヘルスケアへの対応として3つの通知⁶⁾が出された。

また、その後、各大学の取組事例も報告されてきた。大学等における退学を防ぐための工夫についての具体例として、学生生活不適應や心神耗弱、経済的困窮等による退学を防ぐために、行われた工夫の具体例として、①学内の組織体制の整備、②学生に身近な立場からのきめ細かい対応、③オンライン等の活用、④専門家との連携、⑤その他のうちの、②の中に、チューター、担任やゼミの教員が個別に相談対応の実施と記されており、クラス担任による支援はこの中に含まれ、具体的な取り組みとして、実施されたことがうかがえる⁷⁾。

5. 調査

5.1 本調査の対象と質問項目

本研究の対象は大学教育においてクラス担任を担う大学教員である。調査方法は、令和2年7月25日時点で、株式会社クロスマーケティング社に登録された大学教員を対象に、ウェブ調査にて実施した。その結果、174名の回答を得た。本研究では、回答データのうち、調査実施年度にクラス担任であり、107者を分析対象とした。その結果、有効回答は99名(%)であった。基本的属性項目、質問項目は、①大学から、クラス担任として、オンライン等(時には対面)で学生のケアを指示された、②コロナ禍におけるクラス担任が学生に関わるためのマニュアルが配布された、③コロナ禍におけるクラス担任が学生に関わるためのFDが実施された、④受け持ちのクラスの学生を対象とする授業の開講があった、⑤クラス担任として、クラスの学生から相談を受けやすいよ

うにオンラインツールを用いて環境設定を行った、クラス担任として、学生の履修登録情報の確認を行った、⑥クラス担任として、他の授業の履修状況を確認した、⑦クラス担任として、学生の情報収集に努めた。(例：授業の受講場所、アルバイトのこと等)、⑧クラス担任として、奨学金、健康相談の場所など、学生に対して情報発信を行った、⑨クラス担任として、オンライン上で、クラス行事を実施した、⑩クラス担任として、オンライン上で学生から相談を受けた、⑪自己のFacebook等のSNSを用いて、学生に大学の情報を発信した、⑫学部・学科において、オンライン上での交流行事が開催された、⑬学生との連絡の取り方はどのようにされていましたかの12項目、取組事例の自由記述を求めた。

6. 結果と考察

その結果、クラス担任として、オンライン等(時には対面)で学生のケアを指示された70.7%であった。しかし、コロナ禍におけるクラス担任が学生に関わるためのマニュアルが配布された31.3%、コロナ禍におけるクラス担任が学生に関わるためのFDが実施された25.5%であった。つまり、私事はされるものの、その対応・対策に知手の具体的な手法については、クラス担任に委ねられたことが示唆される

また、クラス担任の具体的な取り組みは、クラスの上位から、学生から相談を受けやすいようにオンラインツールを用いて環境設定を行ったが、69.7%、クラス担任として、奨学金、健康相談の場所など、学生に対して情報発信を行ったが、65.7%、クラス担任として、オンライン上で学生から相談を受けたが、64.6%、クラス担任として、学生の情報収集に努めたが、57.6%であった。一方、学部・学科において、オンライン上での交流行事が開催されたは、38.4%、クラス担任として、オンライン上で、クラス行事を実施し33.3%であった。上述の結果から、取組の実態としては、大学からケアの指示をされるものの、FDやマニュアル等が間に合わなかったことがうかがえる。

緊急的な取り組みであったことから、クラス担任による差が生じていることが示唆される。

また、取り組み事例として、自由記述による回答を求めた。その結果については、口頭発表時に提示する。

7. 注・引用文献

- 1) 文部科学省令和2年度における大学等の授業の開始等について(通知)2020
- 2) 学生相談について 1. 学生支援の取り組みについて『大学等における学生生活支援の実態調査』独立行政法人 日本学生支援機構 2006年
- 3) 修学支援について 『大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査(平成20年度)』2009年
- 4) 独立行政法人 日本学生支援機構『大学における学生相談体制の充実方策について―「総合的な学生支援と「専門的な学生相談」の「連携・協働」―』2007年
- 5) 2.2 用語 独立行政法人 日本学生支援機構 『大学等における学生生活支援の実態調査』調査報告 2006
- 6) 文部科学省高等教育局「大学等における新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置の実施に際して留意いただきたい事項等について」(令和2年4月17日付け「大学等における新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置の実施に際して留意いただきたい事項等について」(令和2年4月17日付け
- 6) 文部科学省高等教育局「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて」(令和2年6月5日付
- 6) 文部科学省高等教育局「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について」(令和2年9月15日付
- 7) 文部科学省 高等教育局 学生・留学生課第58回全国学生相談研修会配布資料 学生支援を巡る状況について